

高齢者スキルアップ実地研修の実施と評価（長野）

I. はじめに

本事業は、高齢者ケアに従事するサービス提供者の質的向上を図るために、(1)高齢者ケア提供者の教育と経験の実態を明らかにし、(2)高齢者ケア提供者の教育訓練支援モデルを開発してきた。

今回は、看護職者を対象に、地域支援病院、介護施設の教育的機能を活用した実地研修プログラムを開発し実施した。長野地区は、実地研修場所として医療施設1ヶ所を2回（A1-①②）、介護老人福祉施設（A2）に依頼した。本報告は、研修直後、研修2～6ヶ月の研修生等のふりかえりから、その効果と今後の実現性をまとめた。

II. 実地研修プログラムの概要

1. 研修のねらい

実地研修を通して看護職の専門的スキルアップを習得することによって、施設における高齢者のケアの質的向上を目指す。

2. 研修目標

1. 高齢者の症状観察・アセスメント能力を身につける。
2. 高齢者に多い医療処置に関する看護職としての関わり方を身につける。
3. ターミナルケアへの対応を身につける。
4. リスクマネジメントの考え方を習得し、その実際を身につける。
5. 高齢者の人権の尊重と倫理的対応の実際を学ぶ。

3. 研修対象 介護老人保健施設、介護老人福祉施設に勤務する看護職13人

4. 研修施設と時期

医療施設 ○○病院	A1地区	①平成15年10月29日（水）～31日（金）
		②平成15年11月19日（水）～21日（金）
介護老人福祉施設○荘	A2地区	平成15年11月17日（月）～19日（水）

5. 研修内容

参加観察：症状観察、症状アセスメント、医療処置、緊急時の対応、看取りのケア、リハビリテーション、痴呆への対応、感染管理、安全管理、リスクマネジメント、倫理的判断等

ミニ講義：

A1地区…高齢者の症状観察とアセスメントのポイント、褥創予防、ターミナル期への

対応と看とり、リスクマネジメントと感染予防、高齢者の人権尊重と倫理的対応など

A2 地区 ……福祉施設における看護師の役割、看護計画とケアプランの統合、症状観察とアセスメント、医療・看護処置、看取りのケア、リスクマネジメント・感染症対策など

研修施設と研修日程は、資料1、2、3の通りである。

6. 研修方法

研修者は、自己の希望する内容や課題を達成できるよう、プリセプターと共に、高齢者の看護ケアや医療処置を体験、実施する。体験できないものは見学するか、説明を受ける。

7. 研修者とプリセプターの役割

1. 研修者の役割

- 1) 研修者は、自己の課題や希望を達成できるようにプリセプターや看護師長に申し出て、積極的な研修に努める。
- 2) プリセプターの助言を受けながら、学習の機会を積極的に活用する。
- 3) 研修中にうまくいったこと、困ったこと、負担に思ったことなどはプリセプターに相談し、指導や助言を受ける。
- 4) 看護ケアや医療処置を実施する場合は、プリセプター等と相談し、指導を受け実施する。
- 5) プリセプターの第一線のケア技術を見学し、指導を受ける。
- 6) 必要に応じて関連知識の自己学習をしておく。

2. プリセプターの役割

- 1) 調整：研修者が研修目標を達成できるよう、研修者の学習ニーズに基づき、学習環境を整える。また、研修者と患者、家族との仲介をし、研修に関する倫理的配慮を行う。
- 2) ロールモデル：研修者がケアスキルアップするため、専門的かつ最新の技術を示し、必要に応じて説明する。
- 3) 指導者：研修者と定期的に打ち合わせを行い、研修の進捗状況を把握し、研修目標が達成できるよう指導・助言する。研修者が看護ケアや医療処置を実施するにあっては、十分に話し合い、安全に行えるように指導する。

8. 事故発生時の対応

研修者は、事故がおきないように充分留意して実施し、万が一事故が発生した場合は、

プリセプターに報告する。プリセプターは、必要に応じて管理者へ報告すると共に、長野県看護大学老年看護学講座（奥野）にも連絡をする。

9. 倫理的配慮

1. 研修者は看護職としての倫理を遵守しながら研修を行う。
2. 本実地研修は、厚生労働省科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）の助成を受けて行う研究の一部であり、以下の資料を事業計画として研究に活用する。なお、研修者・研修者派遣施設管理者および実施施設の指導者に対し、研究の目的、方法、プライバシーの保護等を充分説明し、了解を得て実施する。また、データは、個人や施設名が特定されることのないよう配慮する。

10. 評価

プリセプターと研修者、研修者の所属する施設の管理者には、下記の日程で調査。

1. 研修最終日：10月31日、11月19日、11月21日

対象者：プリセプター、研修者

調査方法：1時間程度のグループインタビュー、質問紙調査、
学習項目リスト（研修者のみ）

2. 研修2ヵ月後

対象者：研修者、研修者の所属する施設の管理者

調査方法：質問紙による調査。調査は、郵送、留め置き法。

III. 高齢者ケアスキルアップ研修直後のアンケート

研修終了直後に研修者13人、およびそのプリセプター15人を対象に質問紙調査を行った。回答は、研修者13人、およびそのプリセプター15人から得られた。長野地区は、実地研修場所として医療施設1ヶ所を2回（A1-①②）、介護老人福祉施設（A2）に依頼したので、大きく2領域別にまとめた。

1. 医療施設 A1-①②

1) 研修者

「研修の目標が達成できていたか」という質問に対しては、5段階評価で、10名の研修生のうち5が2人、4が7人、3が1人と回答していることから、概ね達成できていた（表1）。その理由の中で評価の高いものは、自分の研修目的が柔軟に時間設定して実現できるような配慮がされ達成できた、第一線の看護師から勇気をもらえたなどであった（表2,3）。評価の低いものは、研究希望に該当する患者や痴呆のケアのような希望する研修内容がないために、実際にケアしたり学習することができなかつたり、思うような指導を受け

ることができなかつたという意見があつた。

「研修が実践に役立つか」については、5段階評価で、10名の研修生のうち5が2人、4が7人、3が1人と回答していることから、概ね役立つと認識していた(表4)。役立つ主な内容は、「記録の整備」「褥瘡の処置」「安全管理、安全対策」「胃管、バルンカテーテルの絆創膏の固定方法」「感染管理の実際」「STによる嚥下リハビリ」「寝たきりの方のリハビリ」「新しい物品の購入方法、」「おむつの工夫」「O2加湿器の考え方」「IVH管理」「高齢者の人権尊重と倫理的対応」「多くのNs仲間が前向きに看護の仕事や指導に頑張っている姿に勇気づけられ、エネルギーをもらった、意識改革ができた」などであつた(表5,6)。

「その他」では、「丁寧に教えて下さり有り難かつた」という肯定的な内容の他、「講義が貴重であつたのでもっと増やしてほしい」「自分自身の身の置き場がなく、とても困つた」などの研修方法に対する要望や感想などがあつた。また「他施設との交流ができネットワークが広がつた」「自分をふり返る、また自分の施設をふり返る良い機会になつた」等の記述があつた(表7,8)。

以上から、研修者は、本研修で概ね研修目標を達していた。また実践に役立つ医療行為や看護処置が学習でき、スキルアップが期待できると推測された。さらに介護施設や医療施設の看護師同志の交流ができ、看護師としての認識・意識の高揚に本研修の有効性を評価していた。一方、研修目的の具体化と実習環境への適応を促進するために個別的な関わりや指導の必要性が課題となつた。

表1. Q1,研修目標評価 A1①②、A2

回 答	研 修 生			プリセプター			
	A1-①病院	A1-②病院	A2 介護施設	A1-①病院	A1-②病院	A2 介護施設	
とてもそう思う	5	1	1	2	0	0	1
	4	3	4	1	3	4	4
	3	1	0	0	3	1	0
	2	0	0	0	1	1	0
全くそう思わない	1	0	0	0	0	0	0

表2. Q1,研修目標評価 A1①(回答理由)(5名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	1	・病院も施設も、人間を相手にする仕事、看とりまで実習できて良かった。
4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設と病院での看護の考え方、理念は変わらない。 ・実習を通し、施設で行っている医療的な処置や感染管理について、方向性のズレはないと確認できた。また、細かい部分の知識を新しく得られた。 ・命の大切さ、思いやりに触れることができた。 ・第一線で働く看護師の姿に勇気をもらった。 ・痴呆の方との関わりがなく、残念だった。 ・他の病棟も見学したかった。 ・時間が足りなかつた。

		<ul style="list-style-type: none"> 自分の準備として、研修の目的を決めておく必要があった。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> 病院と施設では違うので戸惑った。 病棟 Ns は忙しいので何か訊くのも遠慮した。
2	0	
1	0	

表 3. Q1,研修目標評価 A1②研修生 (回答理由) (5名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の研修目的が具体的に考えてあったので、動きやすかった。目的をプリセプターに伝えることで、即対応し、時間設定もしてくれたことがありがたかった。 観察したいと思った疾患の患者様に直接接することができ、満足している。
4	4	<ul style="list-style-type: none"> 医療現場における Ns の役割と、高齢者施設における Ns の役割は、看護の基礎や思いは一緒だが、やはり相違があると思う。 基本に立ち返り学ぶという意味で目的達成に近づけたが、パーフェクトではない。 観察したいと思っていた経管カテーテル、胃瘻の管理を実際に見ることができた。 PT、ST のリハビリを見学出来、満足している。 褥瘡についても他病棟で見学できて良かった。 目的のターミナルケア、リハビリテーションについて、忙しい中指導者がついて下さって見学できた。 緊急時の対応については、施設での緊急とはニュアンスが違うが、外科病棟という急性期の病棟で患者さんに関わらせて頂く中で学べた。 配置された病室にも他にも対象者がおらず、研修できなかった。 病院ということで、施設のように慢性化、重度化した方がおられなかった。
3	0	
2	0	
1	0	

表4. Q2,実践に役立つか A1①②、A2

回 答	研 修 生			プリセプター		
	A1①病院	A1②病院	A2 介護施設	A1①病院	A1②病院	A2 介護施設
とてもそう思う	5	2	0	0	0	2
	4	3	4	1	2	3
	3	0	1	2	2	0
	2	0	0	2	1	0
全くそう思わない	1	0	0	0	0	0

表5. Q2,今後の実践に役立つことがあったか(回答理由) A1① (5名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の内容が充実しており、今後役立つ。 ・ 技術的な部分も参考になるものがあったので、実践していきたい。(自分が病院勤務していた時より変化していた…マニュアル化されていること、記録の整備、褥瘡の処置、等) ・ 中途半端で行っていたこと、不安に思っていたことが分かった。安全管理、安全対策、人権尊重、倫理等、施設でやっていきたい。
4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃管、バルンカテーテルの絆創膏の固定方法、感染管理の実際、STによる嚔下リハビリ等、施設でも参考にしていきたい。 ・ 新しい物品の購入方法、おむつの工夫、O2加湿器の考え方…等、施設で実践できることを学んだ。 ・ 「高齢者の人権尊重と倫理的対応」の講義を受けて、専門職としての対応に欠けていたかもしれないと反省させられた。施設における看護師の役割に繋がると思う。
3	0	
2	0	
1	0	

表6. Q2,今後の実践に役立つことがあったか(回答理由) A1②研修生 (5名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	0	
4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修で学ばせていただいた事はもちろんのこと、多くのNs仲間が前向きに看護の仕事や指導に頑張っている姿に勇気づけられ、エネルギーをもらった。まずは自分自身が勉強し、Nsとして人として成長していくことが重要だと気づかされた。 ・ 施設での看護が我流になっていた部分を反省し、看護への原点に戻れた。

		<p>難しいかもしれないが、施設へ帰って変えていきたいと実感した。スキルアップというより意識改革ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寝たきりの方のリハビリを見学させて頂き、痰がゼロゼロしている時に肺リハの方法を行うことができ、施設でも実践したいと思った。 ・ 感染症については、病院のマニュアルを見せて頂き、施設で活用したいものをコピーしていただいたので、今後参考に出来るかと思う。 ・ 感染マニュアルやカルテ参照にて、観察事項や記録の書き方などの工夫、ポイントが学べたので、役立たせたい。 ・ 生理的安全欲求を満たし、利用者の人権を大切に、自己決定・選択ができるような対応を今後したいと思った。(総師長さんの話は身にしました) ・ STによる舌運動の見学…施設に採り入れたい。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 即実践したいことは、褥瘡予防について、手洗いの徹底等だが、即実践にならなくても、リハビリの進め方、患者さんへの関わり方、IVH 管理 etc、研修させて頂いたことが有意義だった。
2	0	
1	0	

表7. Q3,研修者の「その他」の意見・感想：A1①（5名）

項目	内容
研修の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がNsであることを事前に知らせて欲しかった。
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の担当の方は、丁寧に教えて下さり、忙しい中質問にもきちんと答えていただき有り難かった。 ・ 病棟研修の時間内、自分自身の身の置き場がなく、とても困った。 ・ 講義が貴重だったので、もう少し時間を取って欲しい。 ・ 講義でターミナル他の話をもっと聞きたかった。 ・ 3日目にも講義をしたらどうか。 ・ 講義は身にしみる内容と、法律・憲法の話で現実とかけ離れる部分があり、後から噛み砕いて理解したい。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痴呆の方との関わりがなく、残念だった。 ・ 北信地域での研修も検討していただきたい。 ・ 他の病棟やレントゲン・検査室など簡単に見学できれば良かった。 ・ 3日間病棟が固定されていたが、できれば1日ずつローテーションできれば良かった。
要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、スキンケア全般（褥瘡、ストーマ、ウロストミー、創傷ケアなど）、専門看護師の処置の実際を学ぶ機会があれば良い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忙しい中、指導していただき、嬉しく思った。 ・ 施設と病院での看護の考え方、理念は変わらない。 ・ 命の大切さ、思いやりに触れることができた。 ・ 担当の患者さんとの会話が多いこと、患者さんの都合に合わせての処置・

		<ul style="list-style-type: none"> ・プリセプターも3日間、同じスタッフは難しく、その場の対応になってしまった。
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生が自立しており、ケアの確認等は本人も経験があり、あまり意味を感じなかった。 ・書類・マニュアルの確認は進んで行っていたが、具体的な疑問や質問はなかった。
1	0	

表 10.Q1,プリセプターの研修目標評価 A1② (回答理由) (5名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	0	
4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を確認しながら、見学等できた。 ・何を学びたいか、何をしたいかを、かなり具体的に言って頂いたので、それに沿って研修を進めた。積極的に動ける方だったので、学びはあったと考える。 ・直接研修者の方の感想を知りたい。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙な時期であったり、スタッフが十分いない中での実習ということで、しっかり関われなくて申し訳なかった。
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・希望していた看取り・痴呆への対応が十分ではなかった。しかし、現在の医療・看護を知ることができたのではないかと思います。
1	0	

表 11.Q2,今後の実践に役立つことがあったか (回答理由) A1①プリセプター (5名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	0	
4	1	
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と病院の中での看護師の役割について考えるチャンスとなった。 ・施設の現状や施設でのケアの方法など病院では見えない部分の話が聞けて良かった。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換が殆どできなかった。現場実習が中途半端で、お互いが理解される前にバタバタ終わってしまった。良い実習環境でなく申し訳なく思う。 ・情報交換する時間がなく、こちらで頂ける情報も少なかった。
1	0	

表 14.Q3,プリセプターの「その他」の意見・感想：A1②（5名）

項目	内容
研修の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修者の学びたい内容が当病棟で行われていないことが多く、他の病棟や部署にお願いすることが多かった。事前に情報があれば、担当病棟を考えられたのではないか。 ・ リハビリは最初から実習項目としてあった方が受け入れが良いと思う。 ・ 自主性の不足を感じた。痴呆・看取りを学ぶ時、どういうケアを見る、自分はどこまでやるのかを明確にされてないので、どう関わって何を見せたら目的が達成できるのか分からなかった。 ・ 当日急にリハビリを見学したいと言われたが、他部門での見学希望は事前連絡して欲しい。また複数いれば看護部で対応して欲しい。
研修時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忙しい時期で研修者とあまり話もできなかった。 ・ 実習の時間が少なく、あまり深く関われなかった。現場にいる時間をまとめて取れれば良かったかもしれない。
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリセプターの役割等、細かいことが決められていた割には、実習時間の短さや病棟事情もあり、十分に機能しなかったのが残念だ。プリセプターの役割にプレッシャーがあった。 ・ 目的に合う患者が少なく、現場の調整が大変であった。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修者の方から、高齢者施設の状況など、もう少し詳しく教えていただけたら、お互いの学びの場になったのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者さんの前で、その患者さんに関係のない質問等があり、スタッフが戸惑った。

2. 介護老人福祉施設 A2

1) 研修者

「研修の目標が達成できていたか」という質問に対しては、5段階評価で、3人の研修生のうち5が2人、4が1人と回答していることから、十分に達成できていた（表1）。その理由としては、「特養へ就職してずっと施設の看護師の役割とは何だろうと悩んできたが、この研修をとおし答えが見えてきた」「他施設を見学し、実際を知ることで自分の施設や業務内容、看護観を見つめ直す機会ができ今後の課題が見えてきた」「辞めたいと思った自分が、頑張ってみようと前向きになれた」などであった（表15）。

「研修が実践に役立つか」については、5段階評価で、3人全員が4と回答していることから、概ね役立つと認識していた（表4）。その主な内容は、「記録のワンファイル化」「各種のマニュアル」「胃瘻管理・食事介助・褥瘡処置」「フィジカルアセスメント」「看護師の役割と連携と重要性」などであった（表16）。

「その他」では、「お互いの交流ができネットワークができたこと」「自分のマンネリさ

を振り返り新たな心意気をもって頑張りたいという気持ちになれたこと」「施設の看護師の必要性を痛感し、その事をアピールしていこうと思った」ことなどの記述があった(表 17)。

以上から、研修者は、本研修で十分に研修目標を達していた。また実践に役立つ医療行為や看護処置が学習でき、スキルアップが期待できると推測された。さらに介護施設や医療施設の看護師同志の交流ができ、看護師としての認識・意識の高揚、お互いの情報交換の場になったなど本研修の有効性を評価していた。

表 15.Q1,研修目標評価 A2 研修生 (回答理由) (3名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特養へ就職してずっと施設の看護師の役割とは何だろうと悩んできたが、この研修をとおし、答えが見えてきた。他施設を見学し、実際を知ることで自分の施設や業務内容、看護観を見つめ直す機会ができ、今後の課題が見えてきた。もう辞めたいと思った自分が、頑張ってみようと前向きになれ、精神的に変化があったのは、大きな収穫だ。 ・ 研修の一番の目的はリハビリテーションだったが、研修を行い、端坐位にすることも1つのリハビリであり、オヤツ介助もギャッジ up ではなく端坐位で介助をすることにより、股関節も曲がるようになり、足も自然に下がる感じになることを学び、目から鱗が落ちるようだった。他の研修及び講義もいろいろと勉強になった。
4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望した研修内容の痴呆への対応については、対象者がいなかったり具体的な情報交換を行うことができなかった点が4だ。 ・ 施設看護師の役割・位置づけの曖昧な部分が、この研修を通して明確にできるかと思う。 ・ 自分の研修目的以外の情報も得られ、とても参考になった。(肺リハ、リハビリ等)
3	0	
2	0	
1	0	

表 16.Q2,今後の実践に役立つことがあったか (回答理由) A2 研修生 (3名)

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	0	
4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワンファイル化は参考になった。(記録に取られる時間が多く、その記録が看護師間だけでなく介護士間にも分かる、共有されるために) ・ 新規採用者への勉強会はやっているが、きちんとしたマニュアルがなく、飯田荘の OST を含めた指導マニュアルなど、とても参考になった。 ・ 施設で医務室の中だけでなく、介護の方とも話しあって実践できると思

		<p>った。すぐにできることもあるので、実行していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 胃瘻管理・食事介助・褥瘡処置を見学できた。具体的に挙げた項目（症状アセスメント・観察・痴呆のケア）は実習できなかったが、フィジカルアセスメントについての説明を受け、自分の力を充分発揮できるよう、看護師の役割と連携について、その重要性を学ばせていただいた。利用者へのよりよいケアの提供を目指し、取り組んでいきたい。
3	0	
2	0	
1	0	

表 17.Q3,研修者の「その他」の意見・感想：A2（3名）

項目	内容
研修の準備	・
研修方法	・
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 介護・看護をそれぞれ認め合い、刺激しあい連携をとっていく努力をしていきたい。 自分の施設でやっている事を話したら、すぐにスタッフ全員で話をして採り入れて下さることには、とても感動した。 研修者だけでなく、皆で吸収していく事が出来、充実した3日間になった。 今まで他施設で研修する事すらなかったのが、今回研修ができたことはプラスになり、情報交換することにより、同じ悩みを抱えていることも分かった。
要望	<ul style="list-style-type: none"> 今後も後輩を育てる意味でも、このような研修が継続されることを望む。 このような研修会は、これからも必要だと思う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 師長さんはじめ看護師さんの一生懸命さ、それぞれの専門分野を持ち十二分に発揮されてる姿を見て感動し、日々の業務に流されながら働いている自分を反省した。 研修を通し、自分自身や施設の課題に気づき、施設の看護師の必要性を痛感し、その事をアピールしていこうと思った。 各看護師がケアマネの仕事をしなが、それぞれ分野別に担当を持って勉強している姿勢に頭が下がった。 若い時のように情熱を持って仕事をしていくように、新たに心意気を持って頑張りたい。

2) プリセプター

「研修の目標が達成できていたか」という質問に対しては、5段階評価で、5名のプリセプターのうち、5が1人、4が4人と回答していることから、充分達成できたと認識していた（表1）。その理由は、「孤立しやすい施設の看護職が、現場の業務を共に実践しながら交流学习でき、研修者と受け入れ側両者が学びの場となった」「研修目的が明確であり、

積極的に取り組んでいた」「自身の施設における看護のふり返りができた」「他施設の情報も得られ、刺激が得られた」などであった（表 18）。

「研修が実践に役立つか」については、5段階評価で、5名のプリセプターのうち5が2人、4が3人と回答していることから、十分に役立つと認識していると解釈できた（表 4）。役立つ主な内容は、「自分たちのしている業務に自信や課題を生み出した」「他の施設の抗菌布、褥瘡の処置の方法なども参考になった」などであった（表 19）。

「その他」では、研修の準備において「他施設へ出かけて学ぼうという方たちの積極的な姿勢は素晴らしいと感じた」「皆意欲的で、今後連携をとり情報交換をして共に良い看護、介護をしていきたい」「それぞれの担当分野について、講義や実践を行うことで自信が生まれ、また、新たな課題を見つける事ができた」「看護師でなければできないことを主張していくためにも、技術や知識の向上は必要不可欠だと思う。自分の施設が良ければいいというのではなく、もっと広い目でみられれば良い」「同じ悩みや課題を共有し、仲間の輪が広がった」など前向きな内容であった（表 20）。

以上から、プリセプターは、本研修で充分研修目標を達していると認識していた。また受け入れ側自身の日頃の実践に自信がもてたり、他施設の医療行為や看護処置が学習でき、スキルアップが期待できると推測された。さらに介護施設や医療施設の看護師同志の交流ができ、看護師としての認識・意識の高揚に本研修の有効性を評価していた。研修者に対しては、積極的であったと評価していた。

表 18.Q1,研修目標評価 A2プリセプター（回答理由）（5名）

評価 (5段階)	回答数	理 由
5	1	・孤立しやすい施設の看護職が、現場の業務を共に実践しながら交流学习できたことは、大変大きな意味がある。交流する中で様々な課題も発見され、研修者と受け入れ側両者が学びの場となった。
4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義をし、リスクマネジメント、感染症対策で、今行っていること等お話ししましたが、2時間では話が尽きないし、他の施設の話ももっと聞きたかった。 ・ 希望されたコピー「介護事故報告書・対応処置・誤薬他」と「食事時窒息の緊急対応」と「経管栄養・管理等」をお持ちになったので、見て頂きたい。 ・ それぞれ目的を持って研修にきておられ、積極的に取り組んでいるのが良く分かった。 ・ 自分のI荘での看護のふり返りができた様に思う。 ・ 仕事に流されがちだが、このような機会により、心が引き締め毎日仕事をふり返ったり考え直す機会になり、また他施設の情報も得られ、自分への刺激が得られた。
3	0	
2	0	
1	0	

表 19.Q2,今後の実践に役立つことがあったか (回答理由) A2 プリセプター (5名)

評価 (5段階)	回答数	理由
5	2	<ul style="list-style-type: none"> 他者から我がチームの業務を見て頂き、アドバイスや意見交換ができた。その中からいくつか当荘で生かせそうな課題があり、参考にしたい。 質問される内容を通して、自分たちのしている業務に自信や課題を生み出せる。
4	3	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身のふり返りの良い機会となった。 他の施設の情報が開けて良かった。(3名) 抗菌布、褥瘡の処置の方法なども参考にし役立てていきたいと思う。 研修の目標として「特養同士の交流の場とし共に学びあう」として行われ、私の担当は、個別機能訓練と自立支援であった。日頃の思いや考えを伝え、今日までの経過、また看護研究としてまとめたものと事例や実技を通し研修を共にできた。何か1つ心に残り持ち帰ってもらえれば役割を果たせたと考える。
3	0	
2	0	
1	0	

表 20.Q3,プリセプターの「その他」の意見・感想 : A2 (5名)

項目	内容
研修の準備	<ul style="list-style-type: none"> 講義を聞く研修とは違い、他施設へ出かけて学ぼうという方たちの積極的な姿勢は素晴らしいと感じた。 来荘された方は皆意欲的で、今後連携をとり情報交換をして共に良い看護、介護をしていけたらと思う。
研修時間	<ul style="list-style-type: none">
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> 課題別に5人で分担し、講義や実践を行った。それぞれの担当分野について、講義や実践を行うことで自信が生まれ、また、新たな課題をみつける事ができたと感じる。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 施設によってシステム等が違い、それでまた生じる問題がある等、全ての施設が足並みを揃えるということは、とても難しいと思う。また施設内における看護師の立場が弱いということは、とても残念に思う。看護師でなければできないことを主張していくためにも、技術や知識の向上は必要不可欠だと思う。 自分の施設が良ければいいというのではなく、もっと広い目でみられれば良い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 初めて会った研修者と、同じ悩みや課題を共有した。またひとつ仲間の輪が広がったようだ。高齢者ケア研究会に生かしていきたい。 研修を受ける方の職場での立場により、興味深く注目される視点に違いがあると、前回、今回を比べ感じた。職場で責任者の立場か、スタッフの立場であるか、目の付け所が違い、自分も研修時はそうである事を自覚した。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">• ケアプランに沿った看介記録とは別に看護計画を採り入れている事の意味とメリットについて話をしたが、他施設の話聞く中で、○荘の記録方法は良いが、後充実とコンピューターを使用し簡素化しなくてはいけない部分の検討は必要だと感じた。• このような研修を行うことで、自分自身が生き生きとできたと思う。これからも続けていきたい。 |
|--|--|

資料 1. 研修について (医療施設○病院) A1-①

研修プログラム

①平成 15 年 10 月 29 (水) ～31 日 (金)

日付	時間	研修内容	担当者	場所
1 日目 10 月 29 日 (水)	9:00	集合・更衣	研究者	総合受付
	9:30～11:15	打ち合わせ・実習オリエンテーション 講義：高齢者の症状観察とアセスメントのポイント 病院紹介・施設見学	研究者 看護副部長	第 1 会議室
	11:15～12:00	プリセプター紹介 研修 (各病棟)	各病棟 師長	各病棟
	12:00～13:00	昼食休憩	〃	食堂、もしくは病棟
	13:00～	研修 (各病棟)	〃	各病棟
			〃	〃
2 日目 10 月 30 日 (木)	9:00～12:00	研修 (各病棟)	各病棟 師長	各病棟
	12:00～13:00	昼食休憩		食堂、もしくは病棟
	13:00～14:00	講義：ターミナル期への対応と看とり	係長 師長	第 1 会議室
	14:00～15:00	講義：リスクマネジメントと感染予防	師長	〃
	15:00～16:00	講義：褥瘡予防 高齢者の人権尊重と倫理的対応	師長 看護部長	〃
3 日目 10 月 31 日 (金)	9:00～12:00	研修 (各病棟)	各病棟 師長	各病棟
	12:00～13:00	昼食休憩		食堂、もしくは病棟
	13:00～14:00	研修 (各病棟)	各病棟 師長	各病棟
	14:00～14:45	研修者グループディスカッション (研修生と研究者)	研究者	第 1 会議室
	14:45～15:15	プリセプターグループディスカッション (プリセプターと研究者/研修者はアンケート記入)	研究者	〃
	15:15～16:00	合同ディスカッション (研修者・プリセプター・研究者)	研究者	〃

資料 2. 研修について (医療施設○病院) A1-②

研修プログラム

②平成 15 年 11 月 19 (水) ~21 日 (金)

日付	時間	研修内容	担当者	場所
1 日目 11 月 19 日 (水)	9:00	集合・更衣	研究者	総合受付
	9:30~11:15	打ち合わせ・実習リエンション 講義：高齢者の症状観察とアセスメントのポイント 病院紹介・施設見学	研究者 副部長	第 1 会議室
	11:15~12:00	プリセプター紹介 研修 (各病棟)	各病棟 師長	各病棟
	12:00~13:00	昼食休憩		食堂、もしくは病棟
	13:00~	研修 (各病棟)	各病棟 師長	各病棟
		〃	〃	〃
	15:30~16:10	高齢者の人権尊重と倫理的対応	看護部長	第 1 会議室
2 日目 11 月 20 日 (木)	9:00~12:00	研修 (各病棟)	プリセプター	各病棟
	12:00~13:00	昼食休憩		食堂、もしくは病棟
	13:00~14:00	講義：ターミナル期への対応と看とり	係長 師長	第 1 会議室
	14:00~15:00	講義：リスクマネジメントと感染予防	師長	〃
	15:00~16:00	講義：褥瘡予防 まとめ	師長	〃
3 日目 11 月 21 日 (金)	9:00~12:00	研修 (各病棟)	プリセプター 各病棟	
	12:00~13:00	昼食休憩		食堂、もしくは病棟
	13:00~13:50	プリセプターグループディスカッション (プリセプターと研究者/研修者はアンケート記入)	研究者	第 1 会議室
	13:50~16:00	研修者グループディスカッション、まとめ (研修生と研究者)	研究者	〃

資料3. 研修について (介護老人福祉施設〇荘) A2

研修プログラム

平成15年11月17(月)～19日(水)

日付	時間	研修内容	担当者	場所
1日目 11月17日 (月)	9:00	集合・更衣	研究者	受付
	9:30～10:00	打ち合わせ・実習前エンタメーション	研究者	多目的ホール
	10:00～11:00	講義：施設概要・福祉施設における看護師の役割 施設見学	師長	〃
	11:00～12:00	プリセプター紹介 研修(症状観察とアセスメント・医療看護処置)	プリセプター	各フロア
	12:45～13:45	昼食休憩		食堂または控え室
	13:45～14:15	サービス担当者会議 講義：看護計画とケアプランの統合、 症状観察とアセスメント、 医療・看護処置・記録	N1	多目的ホール または医務室
2日目 11月18日 (火)	9:00～12:00	研修：看護カンファレンス、 医療・看護処置・アセスメント	プリセプター	各フロア
	12:45～13:45	昼食休憩		食堂、または控え室
	13:45～	講義・実践：個別機能訓練と自立支援	N2	居室
	15:00～	講義：看取りのケア ※注1 (マニュアル作りと役割分担) (利用者の意思尊重と自己決定)	N3	多目的ホール または医務室
3日目 11月19日 (水)	9:00～12:00	研修 講義：リスクマネジメント・感染症対策	N4	各フロア 多目的ホール
	12:45～13:45	昼食休憩		食堂、または控え室
	13:45～	研修		
	14:00～14:45	研修者グループディスカッション (研修生と研究者)	研究者	面談室、または多目的ホール
	14:45～15:15	プリセプターグループディスカッション (プリセプターと研究者/研修者はアンケート記入)	研究者	多目的ホール
	15:15～16:00	合同ディスカッション (研修者・プリセプター・研究者)	研究者	〃

※注1：1日目の様子で、11月18日のAMに移動する。

2・3日目、毎朝 9:00～9:20 の看護カンファレンスを入れる。

IV. 研修終了2-6月後のアンケート結果

研修終了後2～6ヶ月に研修者およびその所属する施設の管理者全員を対象に質問紙調査を行った。回答は、研修生13人、管理者12人から得られた。長野地区は、実地研修場所として医療施設1ヶ所を2回（A1-①②）、介護老人福祉施設（A2）に依頼したので、大きく2領域別にまとめた。

1. 医療施設A1-①②地区

1) 研修生

A1-①地区の研修生は、1回目（A1-①）5人、2回目（A1-②）5人の10人であり全員から回答が得られた。

「研修について研修後、得たことを職場の方に伝えたか」については、10人の研修者全員が伝えたと回答していた（表1,2）。その方法は、報告書等の回覧、申し送り・会議・委員会で報告した、資料を配布した、処置・業務改善を提言した、勉強会開催などであった（複数回答）。

「研修後、自分の業務実践に変化があったか」については、10人のうち9人の研修者が「変化があった」、1人が「変化がなかった」と回答していた（表3,4）。「変化があった」の内容は、処置・業務を工夫したで、医療処置や褥瘡処置、感染管理などに関する改善工夫について回答が見られた。また自分自身の仕事に対し誇りや責任を再確認し姿勢に変化がみられたり、看護職者としての自覚を確認し入所者や他職者との関係に影響しているなどの回答があった。「変化のなかった」の内容は、研修直後は新鮮な気持ちであったが徐々に多忙な業務に流されているというものであった。

「今回のような実地研修は有効だと思うか」については、10人の研修者全員が有効と回答していた（表5,6）。その内容は、「意識が変化した」「他施設の看護師との交流から情報交換ができ学びがあった」「知識・技術の向上につながった」というものであった。また、今後の研修への希望としては、「多くの看護師に、是非研修に参加してもらいたい」「老健や特養での研修もあればよい」「師長の講義時間の延長を望む」「継続を望む」などであった。

「この研修に関して気づいたこと、感想、意見」では、10人のうち9人の研修者から回答があった（表7,8）。主な内容は、「同じ悩みを持つ仲間達と出会うことができた」「他施設の看護師達と良い情報交換ができた」「自分を振り返ることができ、実践を伴った研修と講義で、自分に自信が持てた」「意識改革をすること、マンネリ化を防止すること、最新の医療を知るために、大変有意義であり、機会があればまた参加したい」など前向きな内容であった。一方、「研修生の情報を病院のスタッフの皆さんに知っていてほしい」という要望や「現実の施設は、病院との差が大きく悩み立ち止まっている」という内容もあった。

「この研修に対して研修費用（3日間で）を払うとすれば、どれくらいが適当か」については、5,000～10,000円（1人）、10,000円（4人）、10,000～15,000円（1人）、20,000円（4人）であった（表9,10）。

以上から、研修者は、本研修による成果として看護師のスキルアップとともに、入所者や他職種との関係の改善、看護師の役割や意識の肯定的な変化、仲間との情報交換ができたことの意義を認識しており、本研修の有効性を評価し、今後の継続を望んでいた。

表1. Q1 研修後、得たことを職場の方に伝えたか：A1-① (5名)

	回答数	機会、方法、内容、理由	
はい	5	報告書等で回覧	・復命書を提出。正副所長→総介護長→各部署回覧。
		申し送り、会議、委員会で報告した	・職員会で伝達講習。 ・月1回の職員会議で発表。 ・看護課会議と看護スタッフに伝達。 ・月1回の職員会議で、資料をコピーし、それを基に報告。感染管理・褥瘡予防・高齢者の身体と心の特徴等。(1名)
		資料を配布した	・研修で頂いた資料配布。順次報告している。(4名) ・感染予防等のコピー配布。褥瘡予防に関しては、実践の中で伝達。
		勉強会開催	・勉強会の開催や看護師のミーティングの中で、褥瘡についてはビデオを見せたり、研修で頂いた資料を配付。リスクマネジメントについては講義の内容を伝達。 ・看護部門(医務室)でプリント配布し学習会を行う。
いいえ	0		

表2. Q1 研修後、得たことを職場の方に伝えたか：A1-② (5名)

	回答数	機会、方法、内容、理由	
はい	5	報告書等で回覧した	・復命書提出。 ・報告書の提出。
		申し送り、会議、委員会で報告した	・いただいた資料等で実習内容や研修の感想を伝えた。 ・職員会で研修内容について発表。主に褥瘡について、終末期ケアについて、全体の流れと学んだことについて。 ・同職種スタッフには口頭で伝達したが、介護スタッフには正式にはまだできておらず、今後やっていきたい。 ・看護スタッフには研修内容を伝えた。
		資料を配布した	
		処置、業務改善を提言した	・介護職員へも、ミーティングや現場でその都度、例えば経管栄養注入時のPtの体位や準備について、あるいは感染予防対策(手洗いの重要性)について伝達。 ・手洗い方法について洗面所教力所に貼っている。
		勉強会を開催した	・看護師間で学んだ事の学習会を開いた。高齢者の人権尊重と倫理的対応、ターミナルケアを中心に発表。 ・職員会議時に、褥瘡についての勉強会を持ち、ビデオを使用して勉強を行った。
いいえ	0		